

大豆特報

今後の気象は高温が予想されます。大豆は開花期を迎えます。積極的に畦間かん水を行い、落花や落莢を防ぎ、しっかり収量・品質を確保しましょう。

1 病害虫防除（えんれいのそら、シュウレイ）

【基本防除】病害虫の発生状況や大豆の生育にあわせて、適期に実施しましょう。

防除時期		1回目（8月8日～12日頃） 莢伸長期	2回（8月21日～25日頃） 子実肥大期
対象病害虫		紫斑病、食葉害虫、カメムシ類	
粉剤 体系	薬剤名	トライトレボン粉剤DL	トライトレボン粉剤DL
	10a当たり 散布量	3kg（収穫14日前まで）	3kg（収穫14日前まで）
液剤体系 （ラジヘリ防 除を除く）	薬剤名	プランダム乳剤25＋スタークル液剤10	トライフロアブル＋トレボンEW
	10a当たり 散布量	3,000～5,000倍/100～300ℓ （開花後～収穫7日前まで） ＋ 1,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	1,000倍/100～300ℓ （収穫14日前まで） ＋ 1,000倍/100～300ℓ （収穫14日前まで）

・ 風が穏やかな時に散布し、周辺へ飛散しないように注意しましょう。

※オオツルの防除は、えんれいのそらやシュウレイより、散布時期が1週間程度遅くなります。

【随時防除】

今年は高温傾向のためハダニの発生に注意し、発見次第、速やかに防除しましょう。

対象病害虫	防除時期	薬剤名	10a当たり散布量	使用回数
ハダニ類	8月上旬～ 9月上旬	マラソン粉剤3	3kg （収穫7日前まで）	粉剤、乳剤 あわせて 3回以内
コガネムシ類	7月	マラソン乳剤	2,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	
ウコンノメイガ （ハマキムシ）	7月下旬～ 8月上旬	ダントツH粉剤DL	4kg （収穫7日前まで）	3回以内
		ブレバゾンフロアブル5	4,000倍/100～300L （収穫7日前まで） 16～32倍/0.8ℓ：無人航空機 （収穫7日前まで）	2回以内
ハスモンヨトウ アブラムシ類	8月上旬～下旬	トレボン粉剤DL	4kg （収穫14日前まで）	2回以内
カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	9月上旬	スタークル液剤10	1,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで） 8倍/0.8ℓ：無人航空機 （収穫7日前まで）	2回以内
葉焼病	7月下旬	Zボルドー※	500倍/100～300ℓ	—
		フェスティバルC水和剤※	600倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	3回以内

※ZボルドーやフェスティバルC水和剤は周辺水稻（特に種子）に飛散しないように注意して散布してください。



上：ハダニによる被害
下：葉の裏のハダニ

【裏面あり】

2 雑草対策 ～雑草の種子ができる前に除草を徹底しましょう～

- ・ 非選択性除草剤は、大豆や周辺作物にかからないよう十分注意して下さい。
- ・ 風が穏やかな時に散布し、周辺へ飛散しないように注意しましょう。

対象雑草	除草剤名	10a当たり薬量 (希釈水量)	使用回数	使用方法	使用時期
イネ科雑草	ポルトフロアブル	200～300mℓ (50～100ℓ)	2回以内	全面散布	イネ科雑草3～10葉期 (スズメカビエを除く) 但し、収穫30日前まで
広葉雑草	大豆バサグラン液剤 ※1	300～500mℓ (100ℓ)	1回	畦間処理 ※2	大豆生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで
		100～150ml (100ℓ)		全面散布	大豆2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで
一年生雑草	バスタ液剤	300～500mℓ (100～150ℓ)	バスタと ザクサを あわせて 3回以内	畦間処理 ※2	雑草生育期 但し、収穫28日前まで
	ザクサ液剤	300～500mℓ (100～150ℓ)		畦間処理 ※2	雑草生育期 但し、収穫28日前まで

※1 大豆バサグラン液剤は、使用時期の違いにより「10a 当たり薬量」や「使用方法（畦間処理・全面散布）」が異なるので、散布前に確認しましょう。

※2 畦間処理は、つり下げノズルを使用し、大豆の本葉にかからないよう注意しましょう。

3 畦間かん水 ～落花・落莢を回避し、青立ち予防のため畦間かん水を実施しましょう～

- 開花期頃から9月上旬まで、晴天日が3日以上続いたら、降雨に頼らず積極的に”畦間かん水”を行って下さい。

※開花期以降に土壌が乾燥しすぎると、落花・落莢、百粒重の低下により、収量や品質に影響が出ます⇒速やかに畦間かん水を実施!!

- 畦間かん水は、短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに落水しましょう。



大豆の葉が裏返る前に
畦間かん水しましょう！

しおれてからでは
手遅れです！

4 熱中症対策について

農作業中の熱中症予防のポイント

- 日中の気温の高い時間帯を外し、作業を行いましょう。
- 帽子や熱を逃しやすい衣服の着用、保冷剤等により体を冷やしましょう。
- のどが渇く前に、こまめに水分・塩分を補給しましょう。
- 作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて休憩や体調確認を行いましょう。



こまめな休憩と水分補給



熱中症対策アイテムの活用